

令和2年度 産業建設常任委員会活動報告書【最終報告】

1. 活動テーマ（重点調査事項）

- ・まちのにぎわい創生

2. そのほか委員会で取り上げたいとして計画書に掲げた調査事項

- ・商店街の振興
- ・農村地域の振興
- ・人材の育成
- ・移住定住促進

3. 活動実績

○所管事務調査

1) 令和2年5月

内容：①各課・所における事務事業の内容及び執行状況について
(新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言に伴い書面のみでの調査)

2) 令和2年7月10日(金)、16日(木)

内容：①コロナ禍にある商店街の現況と休業補償等制度の現状について
②令和元年台風第19号からの災害復旧状況について

3) 令和2年10月8日(木)、9日(金)

内容：①太陽の村キッズバイクパークの利用状況等について
②令和元年台風第19号により被害を受けた葛岡山公園の復旧状況について
③鷺沼排水区整備工事の進捗状況等について
④委員会活動テーマにおけるまとめ

※調査結果は別紙一覧表のとおり

4. 委員会としての成果及び反省

今年度の委員会は緊急度の観点から、当初の活動テーマ調査の必要性を感じながらも、昨年度の台風19号による各種土木施設等の被災箇所及び災害復旧状況等の確認に重きを置いた活動となった。また、あわせて今年度は新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、活動範囲が限定されたうえでの委員会活動をとらざるを得なかった。このような委員会活動下で予定していた重点調査事項についての成果及び反省点は次のとおりである。

・商店街の振興 各種補助金等を利用しての活性化策に刺激を受けた^{ほうが}萌芽がみられることから、今後の展開について継続して注視していく。

・農村地域の振興 コロナ禍の影響があり十分な調査を行うことができなかったが、多様な団体との連携・交流を図りながら活動を続けている里山ビジネス振興事業の推移について調査する必要がある。

・移住定住促進 当初の段階では、新規就農者を迎えることにより移住、そして定住へ繋げる何らかの施策を検討したかったが、委員会として調査活動にまではつなげることができなかった。

・人材の育成 昨年度に実施した行政視察研修では、いずれの視察先でも強く感じたことが特色ある事業には必ず核となる人材がかかわっていたことである。一方、当町の地域や各種団体でも、核になるような人材はいると思われることから、彼らが発言・行動しやすい土壌づくりが大切である。

・まちのにぎわい創生 この言葉からイメージする将来ビジョンは委員それぞれに違いがある。しかし各種事務調査、団体懇談会及び行政視察研修等を通じ活動していく過程で、互いのビジョンが異なっても、いずれ人材育成・人材確保が着実に醸成されていけば、それぞれがイメージする「まちのにぎわい創生」の実現に近づくことができることを委員同士の共通認識とすることができた。

今後は「人材の育成・確保の重要性」を加えた視点で、議会（委員会）としても助言・提言できるような委員会活動をしていく。

産業建設常任委員会 所管事務調査結果一覧表（令和２年度）

調査日	調査所管課	調査結果内容
7月10日(金)、 7月16日(木)	商工観光課	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関連した国・県の各種補償制度は、日々変化してきている。申請者が制度申請をする際には混乱をきたさぬよう、商工会との連携を深めながらサポートしていくこと。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関連した町独自の支援制度については、制度設計の趣旨を含めて丁寧に説明されたい。
10月8日(木) ～10月9日(金)	農政課	<ul style="list-style-type: none"> ○太陽の村キッズバイクパークの完成により、太陽の村自体への入場者数は増えてきている。その波及効果を活用し、関係課及び指定管理者である柴田町観光物産協会と連携して、管理施設全体の収益増加について検討していくこと。
	都市建設課	<ul style="list-style-type: none"> ○葛岡山公園の災害復旧工事現場については、沈殿槽を設置し汚泥等の処理を行っていることを確認できたが、引き続き、工事による汚泥等が工事区域外へ流出しないように注意すること。 ○葛岡山公園の災害復旧工事の各種工事資材の搬出にあつては、安全対策に十分留意すること。